



城の要の本丸の建造物が唯一すべて残る

高知城を国宝に！

高知城を国宝にする県民の集い

小さいと言われるが高知城天守は現存天守6番目の高さ



現存とは江戸時代以前から残る天守のこと 重文とは国の重要文化財 土佐史談会島崎

現存12城の内 城に多い,恐ろしい人柱伝説が無いのは高知城、宇和島城、備中松山城のみ

山城 現存12城では 備中松山城のみ 戦法の変化, 領国経営上の立地条件などから平山城等に変化していった。

平山城 平野の中にある山、丘陵等に築城された城 防御的な機能と政庁の役割を併せ持ち、領国支配における経済の中心的役割(城下町)も有利,高知城他多くが平山城になる。

平城 平地に築かれた城、松本城、二条城、名古屋城等

高知県庁又は高知市役所内に
高知城国宝化推進室の設置を

天守とは城の中心部に設けられた大櫓のこと

現存天守

江戸時代までに建てられて現在まで残っているもの。
姫路城・高知城等 12城

木造復元天守

当時建っていた天守を忠実に再建したもの
大洲城(愛媛県)や白河小峰城(福島県)5城

外観復元天守

現代の材料・工法で再建したもので、外観のみ忠実
名古屋城(愛知県)、岡山城(岡山県) 9城

復興天守

実際とはちょっと違い、観光資源として天守を建てた
大阪城(大阪府)、小倉城等 13城

模擬天守

史実では天守がなかったが観光の為に建てた
富山城・岐阜城等 52城

天守の形は望楼型と層塔型とあり高知城は望楼型

『望楼型』は古いタイプの天守と言われ 1階、又は2階の入母屋造りの家屋の上に2~3階の望楼(物見)を載せたもの。高知城・姫路城・犬山城丸岡城・彦根城・松江城が該当、豪華な見た目に反して頑丈な構造。

『層塔型』は基部に入母屋造りの大屋根を持たず、単純に積み上げていくだけの構造となり、工期が早い。弘前城・松本城・備中松山城・丸亀城・松山城・宇和島城の6天守が層塔型で 一般的に望楼型は織豊期・層塔型は江戸時代がほとんど、尚、江戸時代に焼けて再建した高知城は焼失以前は白壁では無かったが望楼型に再建されている。

天守閣とは明治以降に呼ばれる俗語で天守と言うのが正式な呼び名
2019年現在天守と呼ばれるのは全国に約130を超えてある。

天守とは城郭にあって本丸の要所に建ち、天守、天主、殿守(でんしゅ)ともいう。城中における最高の櫓で、城主の指揮所として中枢の位置を占めるとともに、接見・物見・貯蔵の機能をあわせもち、言わばその城の象徴でもある。天守はもともと軍事施設であり、最終防御設備を備え、尚且つ権威を表す象徴として、慶長年間(戦国時代)にほとんど建造された。その為現在の5天守の国宝の基準は城郭最盛期(慶長年間)を代表とする遺構が基準となっていると考えられる。

高知城の重要文化財15棟



高知城の重要文化財指定は以下の15棟

| | |
|------------|--------------------------------|
| 天守 (天守閣) | 外観は3重(4重の説あり) 内部は3層6階建本瓦葺 廻縁高欄 |
| 懐徳館 (本丸御殿) | 天守に接続した本丸御殿は高知城のみです。 |
| 納戸蔵 | 本丸御殿横にあり八畳三室、四畳入母屋造 本瓦葺 |
| 黒鉄門 | 儀式の際に藩主が出入りする門 |
| 西多間 | 城の石垣の上にある長屋 風の矢倉 |
| 東多間 | 走り櫓(やぐら), 多間長屋とも言います |
| 詰門 | 本丸と二の丸をつなぐ櫓門 2階は家老・中老などの詰所 |
| 廊下門 | 東端は東多間に接続し、北面中央前に詰門渡櫓が取り付け |

| | |
|-----------|--|
| 天守東南矢狭間堀 | 矢狭間堀とは中から矢と鉄砲を射るために穴が開いている堀 すべて本瓦葺で土堀の現存例も少ない 木造大壁造り、総延長は約105m |
| 天守西北矢狭間堀 | |
| 黒鉄門西北矢狭間堀 | |
| 黒鉄門東南矢狭間堀 | |
| 追手門西南矢狭間堀 | |
| 追手門東北矢狭間堀 | |

| | |
|-----|-------------------------|
| 追手門 | 櫓門 入母屋造 本瓦葺 2階には石落としがある |
|-----|-------------------------|

本丸部分の建造物が全部残っているのは高知城のみ
現存天守と本丸御殿 追手門が揃って残るのは高知城のみ

奇跡の現存の城 高知城を国宝に！

3000城 織田・豊臣時代の全国の城の数
 ↓
170城 徳川の一国一城令により大きく減った
 ↓
60城 版籍奉還により多くの天守が取り壊された
 ↓
20城 明治～大正～昭和と白アリ等で壊れた
 ↓
12城 昭和 米軍の空襲等で12城のみ残る

天守・本丸御殿・追手門が揃って残るのは高知城のみ

現存の城(江戸時代から残る天守は12城そのうち国宝は5城)

| 現存12城名前 | 国宝・重要文化財 | 所在地 | 最初の築城年と築城者 | |
|---------|---|---------|------------|---------|
| 松本城 | 国宝5棟 | 長野県松本市 | 1594年 | 石川数正・康長 |
| | 現存では唯一平城の天守 漆黒で簡素な外観だが複合連結式の為見る角度によって異なる | | | |
| 犬山城 | 国宝1棟 | 愛知県犬山市 | 1469年 | 織田広近 |
| | 天守は最上階に実用的な外廻縁と高欄が付けられ、華頭窓も付けられている | | | |
| 彦根城 | 国宝2棟 重文5棟 | 滋賀県彦根市 | 1622年 | 井伊直継 |
| | 文禄・慶長の役の際に朝鮮半島に造られた倭城にも見られる登り石垣や大名庭園も現存する | | | |
| 姫路城 | 国宝8棟 重文74棟 | 兵庫県姫路市 | 1601年 | 赤松貞範 |
| | 日本国内最大の現存天守である。白漆喰で塗られた白亜の外壁と屋根や破風の構成美 | | | |
| 松江城 | 国宝1棟 | 島根県松江市 | 1607年 | 堀尾吉晴 |
| | 平成27年7月の国宝になる 現存唯一内部に井戸がある 広さは現存の城3番目 | | | |
| 弘前城 | 重要文化財9棟 | 青森県弘前市 | 1611年 | 津軽為信・信枚 |
| | 1617年落雷により天守を消失1810年に建て替え 現存の天守では最北 最東に位置する | | | |
| 丸岡城 | 重要文化財1棟 | 福井県坂井市 | 1576年 | 柴田勝豊 |
| | 最古の現存天守とする説 福井地震により倒壊元の古材を80%使用 昭和30年再建された | | | |
| 備中松山城 | 重要文化財3棟 | 岡山県高梁市 | 1681年 | 秋葉重信 |
| | 現存天守の中では最も規模が小さい 天守1階に囲炉裏が現存する山城の遺構はここだけ。 | | | |
| 丸亀城 | 重要文化財3棟 | 香川県丸亀市 | 1660年 | 生駒親正 |
| | 天守は14.5mと3番目に低い 総高66mにある総石垣の頂上に建てられている | | | |
| 松山城 | 重要文化財21棟 | 愛媛県松山市 | 1602年 | 加藤嘉明 |
| | 平山城においては最も高い標高160mにある 一番新しい1852年日本式城郭建築の天守 | | | |
| 宇和島城 | 重要文化財1棟 | 愛媛県宇和島市 | 1601年 | 藤堂高虎 |
| | 宇和島伊達家2代宗利が1666年頃に再建 現存天守で唯一城内に障子建具が残る | | | |
| 高知城 | 重要文化財15棟 | 高知県高知市 | 1603年 | 山内一豊 |
| | 火災で1749年に再建 現存の城の中でも唯一本丸の建造物がすべて残る | | | |

江戸時代以前からの天守が残る12城の主なデーター(諸説あります)

高知城を国宝にする県民の集い 発起人 島崎順也 www.japankochi.com/

高知城重要文化財調査の概要

1 高知城の現状

(1) 高知城の歴史

高知城は、関ヶ原の戦いの後、長宗我部氏に代わって国主となった山内一豊によって慶長 6 年 (1601) 築城開始。10 年かけて築城された。

高知城は、標高約 44m の独立丘陵を利用して構築された平山城で、外周に内堀をめぐらし、高石垣で主要曲輪を固め。最高部の本丸に天守を配置する近世城郭である。

享保 12 年 (1727)、追手門を残して大半の建築物は火災によって焼失。その後、享保 14 年 (1729) から宝暦 3 (1753) にかけて再建された。現在の本丸の建造物群は、この時のもの。こうした災禍をくぐりぬけてきた天守・本丸御殿・東西多聞、追手門などの建物は、文化財としての価値が認められ、昭和 25 年 (1950)、国の重要文化財に指定された。

また、城跡全域は昭和 34 年 (1959) に国史跡として指定を受けている。

(2) 文化財指定の概要

① 建造物 (重要文化財：昭和 25 年 8 月 29 日 (昭和 9 年 1 月 30 日旧国宝保存法))

天守、懐徳館、納戸蔵、黒鉄門、西多聞、東多聞、詰門、廊下門、追手門、天守東南矢狭間塀、天守西北矢狭間塀、黒鉄門西北矢狭間塀、黒鉄門東南矢狭間塀、追手門西南矢狭間塀、追手門東北矢狭間塀 以上 15 棟

※その他には、近世の建造物は残されていない。

所有者：高知県

(3) 土地 (史跡：昭和 34 年 6 月 18 日)

① 当初指定 (昭和 34 年 6 月 18 日 129,163.63 m²)

② 第 1 回追加指定 (平成 19 年 7 月 26 日 1876.76 m²)

③ 第 2 回追加指定 (平成 21 年 7 月 23 日 1264.57 m²)

④ 第 3 回追加指定 (平成 26 年 3 月 18 日 3,500.93 m²) 指定面積計 135,805.89 m²

※内堀の多くは埋め立てられ、約 3 分の 1 の区間が残る。旧内堀内の地区でも、史跡指定に至っていない区域もある。

所有者：国、高知県、高知市 管理団体：高知県

史跡の大部分は、高知県立高知公園または、高知市丸ノ内緑地として都市公園指定を受けている。

2 その他の法指定

(1) 都市公園 (都市公園法)

高知県立高知公園 106,045.88 m²

(2) 土砂災害警戒区域 (土砂災害防止法)

3 箇所

3 これまでのとりくみ

(1) 昭和修理資料整理

資料カードの作成及び目録作成を実施する。

(2) 県内博物館所蔵資料確認

高知県立高知城歴史博物館

安芸市立歴史民俗資料館

延享の再建にかかる詳細資料は無いことを確認

(3) 全国の関係機関（市町村、博物館等）確認

高知城に関する資料の保有状況を確認

(4) 他の重要文化財天守を持つ地方公共団体の調査

重要文化財に指定されている高知城以外の7天守で、国宝を目指そうという動きがある城郭は、丸岡城（福井県坂井市）のみ。その他の城郭は、現段階で建造物の調査は実施していない。

4 調査から見えてきたこと

(1) 工事記録

延享の再建時の工事記録資料は、残されていない。



①創建時の天守を再現して再建されたと伝えられるが根拠が無い。

②現在の天守の構造及び様式を採用するためにどのような検討がされたか根拠が無い

(2) 天守の構造及び様式

天守は、望楼型天守と層塔型天守に区分され、層塔型天守の方が構造的に強固で建築として発展したものであることがこれまでの研究により確定している。天守の発展は、1615年のいわゆる一国一城令が出されるまでの時期で終わったと整理されている。高知城天守は、再建天守の中で復古型天守に位置付けられており、江戸時代初期までに建築された前期・後期望楼型天守を参考に建築されたものと位置付けられている。

高知城天守は、入母屋屋根の上に望楼（高欄、廻り縁は望楼の条件ではない）を載せた望楼型天守であるが、構造として、姫路城の様に各層を貫く柱は無い。また、松江城天守の様な各層をつなぐ互入の柱も無い。通常は、異なる構造をつなぎ強度を確保するものとして建物の各層の棟を支える位置にこれらの柱は設けられている。

高知城天守は、2階を一層とする構造を三層積み上げたような構造であり、理由は不明であるが構造的には、簡略化されている。また、様式的にも望楼型天守に見られる花頭窓が見られないなど江戸時代初期の望楼型天守とは異なる。

(3) 昭和の修理資料

①資料類型

図面（修理前、竣工）、写真、出納関係資料（金銭、資材）、補助金関係書類、作業員雇用関係書類、文化財保護委員会協議などに大別される。

②内容

天守の報告書に収録されている部材交換表の根拠となるものは、見当たらない。また、どの部位を交換したのかを示す資料も無い。

5 今後の取組

前述のように、従来の城郭建築の研究に基づくアプローチでは、高知城天守は、評価されにくいものである。また、資料も限られており、資料から判明する事項は少ないと考えられる。

簡素化された構造や様式を採用した理由を史料などから明らかにし、高知城天守の建築史上の積極的な位置づけを確立することができないか、さらに検討する必要がある。

そのため、江戸時代中期以降新たな建築がされなくなった天守建築との比較だけでなく、社寺や民家などその他の建築の発展の中で捉えなおす検討を進めることとしたい。

また、資料調査については、県外だけでなく、県内の個人で保有する方を探すことも検討する必要がある。

以上 高知県教育委員会文化財課 平成31年3月24日 高知城重要文化財調査の概要

高知城重要文化財建造物調査事業

文化財課

H30当初：1,804千円（－）1,801千円
 (H29当初：1,827千円（－）1,822千円)

事業概要

現存12天守の一つであり、文化財建造物としての価値が高い高知城天守について調査研究を推進する。

期待される効果

- ① 解明されていなかった建造物の文化財的価値(建造記録、特徴、構築技法など)が明らかになる。→学術的評価の向上
- ② 調査成果を広報普及することにより、高知城への注目度が上がる。→観光地としてワンランクアップ

現状・課題

- ① 延享4年(1747年)の再建時の資料が確認されていない(調査されていない)
- ② 再建天守の学術的評価がなされていない(研究が進展していない)
- ③ 昭和の解体修理の学術的評価が行われていない(記録の整備が不十分)

事業目標

第一段階(平成27年度から平成30年度)
 昭和の解体修理の資料の調査研究により、天守の基本的な情報を収集

第二段階(平成31年度以降)
 基礎調査の成果を元に専門家の指導のもと調査を実施し学術的評価に備える資料を作成

実施内容

○事業費 1,804千円（－）1,801千円

(1) 基礎資料整理 (1,535千円) →継続

- ① 昭和の解体修理資料の分析 (過去の調査から課題を明確化)
- ② 博物館所蔵資料等調査

(2) 専門家による調査・指導 (269千円)

- ① 建造物調査 (類別調査等)

→「新たな知見」を生み出す本格調査に向けて (平成31年度以降)

- ② 科学的調査の実施検討 (赤外線撮影、放射線炭素(C14)年代測定他)

(3) 市民運動との連携→高知城の価値を身近なものに

- ① 調査成果の広報普及 (報告書の刊行など)
- ② 国宝指定の機運の醸成 (シンポジウムなどの開催)

貴重な文化財の価値の証明



| | 平成28年度 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度以降 |
|-------|------------------|--------|----------|
| 基礎調査 | 資料収集・分析 | 資料分析 | |
| 専門的調査 | 痕跡調査 | 類別調査 | 化学分析 |
| 委員会 | 基礎的検討 | | 発展的調査 |

高松市が高松城天守復元資料募集/懸賞金は3000万円

丸亀市では、「丸亀城の隅櫓、渡櫓及び藩主御殿」の復元を目指し、古写真を探しています。¥1.000万円

高知県もあつたはずの棟札・再建時の図面、資料に1.000万円位の懸賞金を出し、何処かにあるはずの資料を探し、県民に関心を持って頂く努力が欲しい。

「高知城を国宝にする県民の集い」 2020年6月24日

高知城は昭和9年旧国宝（国宝保存法）に指定されましたが、昭和25年の文化財保護法の施行により、天守等15棟が国の重要文化財に指定され、現在にいたっております。

国宝建造物とは、国指定重要文化財のうち、世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいえない国民の宝たるものであるとして、国が指定したものである（文化財保護法第27条第2項）となっており現在**国宝指定の条件は、棟札等建立時期を明確に記した一次史（資）料が必要です**。再建時の工事記録、資料、棟札も無い状態、さらに昭和の大改修の詳細な記録が乏しく、新しい知見等が出ないとして、国宝建造物としての価値は認められてない状態です。しかし、近年では明治、大正、昭和の時代に建てられた、社寺や美術館で世界遺産や国宝に選ばれている現状を見ますと、間違いもなく侍の時代に建てられて、姫路城などにも残って無い、城の要である本丸にすべての建造物が残る高知城は、すばらしい城と言えます。江戸時代の建築の発展の中での天守を捉えなおす検討を進め、尚且つ県内外の個人宅等に残された資料を他県のように懸賞金を設け、探し出すことも一つの方法と言えます。高知県民で運動を盛上げ、再び『国宝・高知城』と呼べる日を迎えられるよう、努力して行きますので、よろしくお願い致します。

役員等敬称略

| | | |
|-----------|--|-----------------------------|
| 会長 | 浜田英宏 | 元高知県議会議員・土佐史談会評議員 |
| 役員 | 三石文隆 | 高知県議会議員 県議会議員 元西部中学校等教員 |
| | 上田貢太郎 | 高知県議会議員 危機管理文化更生委員会委員長 |
| | 久保博道 | 元高知県議会議員・元高知県観光振興部部長 土佐史談会 |
| | 三谷勝水 | ミタニ建設工業株式会社社長 土佐史談会 |
| | 生駒 輔 | 株式会社エフエム高知 元取締役会長 |
| | 藤本正孝 | 城西館代表取締役社長 |
| | 佐竹新市 | 学校法人 龍馬学園グループ理事長 土佐史談会 |
| | 鍋島勇雄 | 元大橋通商店街理事長 |
| 相談役 | 宅間一之 | 土佐史談会会長、元高知県立歴史民俗資料館館長 |
| | 公文豪 | 土佐史談会副会長、元高知近代史研究会会長 |
| | 今井章博 | 土佐史談会副会長 高知近代史研究会会長 |
| | 岩崎義郎 | 土佐史談会、土佐観光ボランティア協会、高知城を歩く著者 |
| | 吉澤文治郎 | ひまわり乳業株式会社 代表取締役社長 土佐史談会理事 |
| | 中脇修身 | 中脇建築研究所 元香川県四国能力開発大学教授 |
| | 川村貞夫 | 高知市議会議員 観光議員連盟副会長 |
| | 戸田二郎 | 高知市議会議員 |
| 土佐史談会賛同会員 | 野村茂久 竹村清 川澤啓良 田村智彦 寺尾晴邦 小野 廣行 山元宏典 津野昭雄 濱口美佐子 岡林雅士 根木勢介 | |
| 発起人代表・事務局 | 久保博道 三谷勝水 三宮洋一 島崎順也（会長代行・土佐史談会理事） 住所〒780-8063 高知市朝倉丙 15-8 電話 090-3783-1625 FAX088-843-0908 Eメール smskjny@yohoo.co.jp 島崎順也 | |
| 支援組織団体 | ミタニ建設工業株式会社 龍馬学園グループ（有）山村木材 寺尾石材 ひまわり乳業株式会社 城西館 税理士法人高知さくら会計（株）猪野工務店 | |

高知城天守が奇跡的に残った理由

島崎順也

近世城郭と言われる建造物は、戦国期から江戸初期にかけて約半世紀の間に建造され、その数、約三千と言われていた。高知城は慶長六年山内一豊が掛川から土佐に入国し、浦戸城に居城しながら現在の大高坂山に、新しい城を築くことを江戸幕府へ報告。約三年後の慶長8年に、本丸と二ノ丸が完成し山内一豊が入城した。慶長20年大坂夏の陣で戦国の世が終結。江戸幕府が制定した一国一城令により、約九割以上の城が短期間に壊され170城に減少。土佐では中村城、佐川城等が取り壊され高知城のみ残った。120年後の享保12年2月高知城西、越前町西側付近の民家より出火、近隣の家へ燃え移り、前日からの西風止まらず桜馬場、西大門、二ノ丸、本丸の御殿、天守等全焼した。その後22年の年月をかけ、寛延2年天守が再建された。現在の形の天守は其の時のものであるが、当初の天守は白壁では無かった。

慶応4年始まった戊辰戦争で徳川の世は終わりを告げ、王政復古により明治新政府が発足。明治2年1月14日土佐藩の板垣退助、薩摩藩の大久保利通、長州藩の広沢真民が京都で会合を行い3藩が合意し備前藩の藩主を加えた4藩の藩主が連盟で新政府に上表を提出し、版籍奉還が行われた。その結果全国の藩が、所有していた土地と人民の籍が朝廷に返還。さらに廃藩置県が明治4年7月14日に行われ、地方統治を中央管下の府と県に一元化された。明治5年2月、全国の城跡を管轄していた兵部省が廃止され、陸軍省と海軍省が設置されると、城跡は陸軍省に移管された。明治6年1月、陸軍省は軍管制度を改めて全国の鎮台配置を改定し、9日付で太政官から、「六管鎮台表」として6鎮台12営所等が布告された。そのほとんどは旧来の城郭が充てられた。

「城郭の存廃決定は、鎮台配置の改訂に対応して慌ただしく行なわれたので、存城・廃城調書の記載も杜撰であり、いずれの調書にも記載されていない城郭・陣屋などが相当数みられる。例えば、松前城、弘前城、小松城、今治城、高知城、旧仙台藩の上口内、人首、佐沼、登米、不動堂、川崎、金山、平沢の各要害が記載されていなかった。特に、高知城のような重要な城郭が記載漏れになっているのは不審に思われるが、同城については、その帰属をめぐって陸軍省と大蔵省の間で対立があり、陸軍省に引き継がれていなかったのである」注① それにしても高知城が記載漏れとは驚きであるが明治6年と言えば征韓論で板垣退助、西郷隆盛等が下野した年で明治新政府内部は大混乱の年であった。同年3月31日幕末の土佐藩士で立志社派の人物、第二代目高知県県令の岩崎長武から大蔵省に提出した高知城公園化の伺いは高知城二ノ丸に碑として今でも残っている。このお伺いに対し同年4月20日、租税頭陸奥宗光から「書面申出之通聞届候、尤後取締見込取調、且実測平面図相添尚可申出事」注②として許可がなされた。その結果全国で最初に高知公園として残った。その年の11月14日、正院は城郭の存廃を決定。俗に言う廃城令、正式には全国城郭存廃ノ処分並兵營地等撰定方が発令された。高知城は全国に先駆け公園化され翌年松山城が追随し公園化したことをみても全国の城郭の公園化の手本となっている。廃城令のあと60城に激減し明治、大正、昭和と年月を重ねて太平洋戦争前には20城が残っていたが、昭和20年の日本本土への米軍の大空襲により広島城、福山城、岡山城、和歌山城、大垣城、名古屋城、水戸城、七城の天守、追手門の屋根には焼夷弾が降り注ぎ消失した。北海道の松前城は1949年失火で焼失。江戸時代から残る天守は12城になった。米軍の本土空襲では文化財は残したと言う話もあるが、それは都市伝説にすぎず、高知市では大橋通電停を中心に半径1200mを爆撃する命令書が残っている。昭和20年7月4日高知大空襲では高知市中心部にありながら高知城は奇跡的に残った。

江戸時代から残る現存の天守はわずか12城。その一つ高知城の最大の危機は明治初めの廃城令であったと言える。その最大の危機を救い残したのは文武両道で立志社の民権運動に協力的で県庁に登用した等で保守派の反発を受け、明治9年8月25日)第二代目高知権令を罷免された岩崎長武が一番の功労者と筆者は思う。島崎順也

引用文献①②存城と廃城・城はいつ終わったのか 森山英一